

# Young Officials' Camp 2011

## 参加報告書

- 【日時】 2011年8月12日（金）～14日（日）
- 【会場】 上尾運動公園体育館，県立スポーツ研修センター，埼玉県立上尾市プラザ 22
- 【参加者】 50名（男性30名，女性20名）
- 【講師】 平育雄氏 吉田正治氏 前田喜庸氏 山崎人志氏 平野彰夫氏  
倉口勉氏 平原勇次氏 吉田憲生氏 吉田利治氏 須黒祥子氏  
安西郷史氏 岩田千奈美氏 小坂井郁子氏 （順不同）
- 【報告者】 大林裕子
- 【スケジュール】

8月12日（金）

- ・開講式
- ・＜講義Ⅰ＞ 「モチベーションコントロール研修」  
講師：松場俊夫氏（NPO法人「コーチ道」代表理事）
- ・＜講義Ⅱ，Ⅲ＞ DVD講義 ルールについて  
講師：平野彰夫氏（日本協会 規則委員長）

8月13日（土）

- ・実技講習Ⅰ 高校生男女によるモデルゲーム
- ・＜講義Ⅳ＞ 講話  
講師：Ilija Belosevic氏（セルビア／FIBA 審判員）
- ・閉講式

8月14日（日）

- ・実技講習Ⅱ 高校生男女によるモデルゲーム

## 1. 講義内容

＜講義 I＞ 「モチベーションコントロール研修」

講師： 松場俊夫氏（NPO 法人「コーチ道」代表理事）

### ＜内容＞

人は、物事に取り組む過程やその結果において、それらの事を失敗と判断すれば、大半の者がマイナス、ネガティブな思考に陥る。失敗を受け止め、このような思考から、前向きでポジティブな思考へ切り替えること、これがモチベーションコントロールというものであり、今回の講義のキーワードであった。

モチベーションとは、下記のように WILL・MUST・CAN を掛け合わせたもので表される。

モチベーション = WILL (やりたい) × MUST (やらなきゃ) × CAN (やれそう)

モチベーションのメカニズムにおいて、「やりたくない、やらなくてもいい、やれそうにない」と1項でもマイナスのものが入ると、モチベーションは一気に低下し、結果もおのずと悪い方向へ向かうこととなる。このモチベーションの低下を回避したり、低下時にモチベーションを立て直し、切り替えたり、自らの思考の転換をする方法こそ、「セルフ・モチベーションコントロール」といい、モチベーションコントロールの実践法である。

### ＜セルフ・モチベーションコントロール＞

#### ① 自分のモチベーションの源泉を知る。

自分がやる気満々で、調子のよい状態はどんな時であるか把握をする事が、モチベーションアップへつながる。

#### ② コントロール出来るものにエネルギーを注ぐ。

他人や自分の感情、生理反応、過去などコントロールできないものに、無意識に目を向け、悩み、問題解決に力注いでいることが多い。しかし、自分自身や自分の思考、行動、未来など、自分次第でコントロールできるものに目をむけること。

#### ③ 対極思考法で、思考を切り替える。

②のことより、自分でコントロール出来るものに対し、自らのアプローチの仕方を変え、行動を変化させることで、未来を変えていく。例えば（自分⇄相手）のような対極にある事柄において、相手を批判し、相手へ変化を要求するのではなく、相手に対する自分の見方、考え、行動を変えることで、モチベーションアップを図る。

どんな環境や状況であれ、自分が何を見て、事柄をどう捉え、自分の行動にどう移すか。このセルフ・モチベーションコントロールの考え方は、審判活動をする上でも、社会生活の中でも、非常に重要であり、今の自分にとっては最高の講義内容であった。この考えを積極的に取り入れ、自らを変え、自らの未来を変えられるよう、日頃から実践していきたいと思う。

<講義Ⅱ, Ⅲ> DVD 講義 ルールについて

講師：平野彰夫氏（日本協会 規則委員長）

《内容》

○基本事項の徹底

・わかりやすく伝えるためのシグナルは大切

- 時間が止まる時、ジャンプボールシチュエーション時は頭上にしっかりと手をあげる。
- アウト・オブ・バウンズはディレクションのみではいけない。

・ノーバスケット時のスローイン

- シュート前のヴァイオレーションやオフボールのファウルにおいて、ゴールが認められないのであれば、フリースローラインの延長戦からスローインを行う。

・ファンタジーファウル＝ストレートライン

- ファウルのみだけでなく、ヴァイオレーションについてもストレートラインにならないように。オールウェイズ・ムーヴィングを心がけ、よいポジションを常にとって判定すること。判定がわからないものについては、笛を吹かない。ベンチ、プレーヤーへの不信感につながらないようにする。

・シリンダー、リーガルガーディングポジションの考え方

- リーガルガーディングポジションで位置を占めていても、トルソーの接触でないと触れ合いの責任はディフェンスになる。リーガルガーディングポジションとは、両足を床に着け、相手に向かっているときのことであるが、オフENSに対して後ろや平行に動きをとっているときはシリンダーの条件は保たれる。判定において、ノーコールはあるが、オフENSの責任にはならない。

国際試合や日本のトップリーグの試合のDVDを参考に、上記の事柄に視野を当て、基本事項の確認を含めた、判定の説明を受けた。バスケットボール競技規則に則り、マニュアルの理解の下、基本動作を徹底することの重要性を痛感した。レフリーにおいて1つ1つの動作や振る舞いはどのレベルの試合のレフリーでも重要であり、基本事項の徹底は、上級審判への道の中でも、疎かに出来ない必須事項であると感じた。自分のような未熟なレフリーは、特にこの基本事項の徹底を習慣づけ、意識的に実践していくことが必要であると実感した。

<講義IV> 講話

講師 : Ilija Belosevic 氏 (セルビア/FIBA 審判員)

ゲームにおいて、「コーチ・選手はレフリーを信頼し、レフリーはコーチ・選手を信頼する」という関係を築くことが理想的であり、そのためにレフリーは判定だけではなく、ゲームマネジメントにも十分に目を向け、ゲームをコントロールしていかなければならないなど、主にゲームマネジメントについて学んだ。

○2 パーソンの大事な要素

\*Running

\*Boxing – in

\*Freezing (日本ではあまり例がないが、世界大会などでは、ファウルを吹かれた選手が過度なアピールをしたり、相手プレイヤーに肘をぶついたり、乱闘が起きることが珍しくないため、ファウルを取り上げていないレフリー、レポートに行かないレフリーが、一度止まって、選手全体を見ておくことが必要である。)

○ゲームについて (ゲームマネジメント)

- ・常に基本を大切にし、初級レフリーはマニュアルに従い、基礎固めに励むこと。
- ・相手審判の動向を見て、常に協力してゲームを進行すること。
- ・判定においては、根源にあるものは何かを明らかにし、雰囲気判定しないこと。
- ・推測ではなく、選手にいつも先行し、いい場所で、いい時に、いい判定をすること。
- ・ゲームの最初と最後は特に集中すべき時間帯であり、人の記憶に残る時間であるため、ミスジャッジを絶対に回避しなくてはならない。
- ・人間が判定をする以上、ミスジャッジがないわけではない。判定に間違いがあれば、ミス認め、忘れることが大事であり、すぐに切り替えをしなければならない。
- ・レフリーは常に予期できないことを予測することの連続であるため、集中力、冷静な判断力は不可欠である。
- ・ルールブックの動きは最低限身につけておくべきことであるが、マニュアル通りに吹くことだけが良いレフリーではない。ルールを理解していることは、大前提であり、コーチ・選手が何をしようとしているか、把握し、刻々と変わるゲームの流れを感じ、どんなレベルの試合であっても、良い方向性に導けるゲームコントロール力を持つことが大事である。常に選手に気を遣い、選手のストレスがレフリーにより誘発されたものであってはならない。

○目標を明確に

大きな野望を抱き、それに向かい目先の課題をクリアできるよう努力し、経験を積み重ねることで、よりよいレフリーになること。オリンピックのレフリーを務めることができるのは FIBA レフリー約 1300 人中 40 人である。その一員に入れるよう、ゲームではもちろん、日々の生活においても、より精進していくことが大切である。

## 2. 実技講習 I・IIについて

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 日時   | 8月13日(土) 14:45 ~         |
| 対戦   | 小山西高校 - 駒場高校 [女子]        |
| 審判割当 | 大林・土屋 康隆氏 (神奈川)          |
| 講師   | 吉田 利治氏 , 山崎 人志氏 , 須黒 祥子氏 |

- ・相手審判との視野の分担、位置関係、受け渡しをしっかりとすること。
- ・トラベリングを吹きこぼすと、ファウルが起きる可能性が出てくる。影響のないトラベリングを吹かないことも大事だが、トラベリングの見間違いがあってはならない。
- ・DFが間違った位置に立っている状態で、OFとどこでどんな接触があるかをみること。
- ・とにかくDFの位置を捉えスペースをみて、そこにどのOFが入ってくるかをみること。
- ・余裕を持って吹くこと。

|      |                   |
|------|-------------------|
| 日時   | 8月14日(日) 11:45 ~  |
| 対戦   | 川越南高校 - 松山高校 [男子] |
| 審判割当 | 大林・片山 誠太氏 (愛知)    |
| 講師   | 吉田 利治氏 , 山崎 人志氏   |

- ・接触はすべてファウルではない。どちらに接触の責任があるのかを判定するために、どこにポジションを取り、何をみにいくのかを明確にさせること。
- ・時限の終わりは、トレイルが対応すること。
- ・3番からのドライブに対して、ストレートラインにならないこと。縦のラインになればリード、横のラインはトレイルが判定に関わる。
- ・ギャロップステップについての理解。
- ・現象だけを追いかけるだけでなく、予測をすること。
- ・男子のゲームは、リバウンドに関しても注意深くみておくこと。

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 日時   | 8月14日(日) 14:45 ~         |
| 対戦   | 富士河口湖高校 - 新総鷹の台高校 [女子]   |
| 審判割当 | 湯浅 かおり氏・大林               |
| 講師   | 吉田 利治氏 , 山崎 人志氏 , 須黒 祥子氏 |

- ・リードの動きがゴールの真下付近で止まるのではなく、左右に動いて判定しやすい場所まで動くこと。
- ・ジェスチャーの仕方は強く自信を持って行うこと。
- ・ファウルを取り上げた時、2ショットなのか、エンドスローなのか、適切なコールをする。
- ・スローイン時の視野のあて方の工夫をすること。

### 3. 全体を通しての感想

今年度より、公認審判員として、様々な試合の審判の機会を与えていただいているが、その度に自らの力のなさを感じていた。そのような中、今回 YOC に参加させていただき、さらに自分の無力さを痛感させられることとなり、ルールの理解から始まり、技術の理解、レフリーとしての振舞いなど、自らの課題が今まで以上に露呈する形となった。しかし、全国からの上級審判を目指そうという志の高い方々の審判活動に対する積極的な姿勢や意識の高さに、大変よい刺激を受け、自らの審判活動に対する思いや考え方が大きく変わり、目標が鮮明になり、非常に有意義な研修であった。

まず、今回の研修では、いかに基本動作が重要であるかを学んだ。国際審判員の方々が口を揃え、判定そのものも大切であるが、基本動作を徹底しているかということが、ゲームの管理につながり、結果的にコーチ・選手・観客との信頼関係を作るための要素となる為、非常に重要であると話されていた。実力のない自分でも、笛の強さや正確なシグナルなど、審判動作のひとつ一つの振舞い方、見せ方は意識して取り組めることであり、即実践に移していきたいと思った。そして、同時に世界を背負い審判活動を行っている方も基本事項・基本動作を常に意識し、徹底していることを知り、「基本の重要性」の深い意味を考えさせられた。

次に、目標設定の重要性を学んだ。審判活動をする中で、長期的な将来の目標や目の前の小目標などを設定し、目的を持って活動していく必要があると強く思った。「審判とは何か。」を考え、「レフリーとしてどうありたいか、どうなりたいか。」自分の考えを持ち、目的意識を持って活動をしなければならない。そして、試合においても正しい判定をするため、「何を判定しに行くか、何を視に行くのか」という目的を持ち、それに基づき「どこに動き、どう位置取りをするか。」を決定しなければならない。この目的がなければ、ただ試合を遂行しているだけになり、ゲームコントロールができなくなる可能性がある。このように何事においても目的や意図を持ち、的確な行動をして、目標達成のための活動をしていくことは審判としての力を付けていくために大切なことの一つでもあったと感じた。

現在、女性審判員育成の高まりの中、多くの経験を積む機会を与えられ、自分は恵まれた環境にあることは確かである。与えられた環境に身を置き、甘えるのではなく、向上心を持ち、着実に力をつけ、審判活動をしていく中で、人間性を磨き、誰からも信頼されるレフリーになりたいと思う。そして、女性審判員として、大きな舞台で活動ができるよう、今回の学びを活かし、積極的に活動していきたい。今回の研修は、審判技術面での自らの課題を再確認したり、新しい課題を発掘したり、技術理解は勿論、審判としての根幹を自らに問ういい場であり、非常によい経験が出来、充実したものであった。

このような素晴らしい環境での講習の開催にあたり、運営をしてくださった日本協会の方々を始め、熱心にご指導くださった講師の先生方に深く感謝したいと思う。また同時に、今回このような貴重な場を与えてくださった京都バスケットボール協会審判部の方々にも感謝し、これまで以上に精進していきたいと思う。